

## 七、類は友を呼ぶ法則——心を正そう

(ページ「病気の原因」参照)

私の処には、よく身体の悪い人が来る。

「先生、私、何処が悪いんでしょうか？」

「私、医者じゃありませんよ！ 知りませんっ」(笑)

「いや、そんな事言わないで、教えてくださいよ」

「あなたは、こういう処が悪いですよ。しかし、私は医者じゃないから、よく診察して貰いなさい。レントゲンを何枚も撮って貰いなさい」

と言うんです。病院に行つてレントゲンを撮るくらい、別にどうという事はないでしょう、切ったり貼ったりする訳じゃないですからね。

今は風邪をひく人が本当に多いですよ。風邪がいろんな症状を起こす訳です。

「もう、死にそうです」と言つて来る人がいるんですよ。

「あなたはね、風邪なんですよ」と言つても、普通病気をしたことがない人は、そう

なつてくるんですね。

身体が少しぐらい悪くても、「なにくそ」と思つたら、別にどうという事ないですよ。それを「ダメだ」と思つたら、悪くない処まで悪くなつてしまう。

これは以前、私の知っている人が、相談にみえて、

「ズーンと頭が痛くてたまらないんです。治らないのですが、一体何でしょうか」

「あなたは、風邪でそうなっているんですよ」

と言つたんですが、その人は気になって、念の為、病院に行つてみた。そうしたらそこのお医者さんは、

「あなたは風邪なんかじゃないですよ。よく調べてみましょう」

と言われ、その後、結局二ヶ月という入院になつてしまつたんですね。

先ず注射をされ、頭の痛み止めの薬を飲まされた。

しかし、その薬を飲むと頭が張り裂けそうに痛くなる。それで、医者に言つたら、「それじゃあ、この薬にしましょう」

と、違ふのを飲んだ。そうしたら、今度はお腹にきた。(笑) また言つたら、

「今度はこれにしましょう」

と言われた。その人は、何だか自分が実験じっけんされているような気がしてきた訳ですね。しかし、入院しているからどうにもならない。そのうちに糖とうが下り始めた。

「あ、あなた糖尿病とうにょうびですよ」

と、遂ついに糖尿病の治療ちりょうまで始まった。最初、頭が痛いだけだった筈はずが、今度は糖尿病になった。(笑)

身体が段々おかしくなつて、或る日、これはいけないと看護婦かんごふさん呼んだ。そうしたら……分かりますよね、医者いしゃを直ぐ呼んだ。

そして、医者いしゃが飛んで来て大騒おおさわぎになったそうですよ。完全かんぜんに糖とうが下りて来て、死ぬいっぽて一步手前まえだったそうですよ。医者いしゃは青い顔をして砂糖さとうを持って来て、どんく舐なめさせたそうですよ。砂糖さとうや生姜しょうがや薬を飲のましているんな事をしたそうです。(笑) そうするうちに、私がそちら方面ほうめんに話をしに行く日が近づいてきた。その人は私に相談さうだんしようと思つて、もう退院たいいんするつもりでいたんですよ。

しかし、相変あいかわわらずその医者いしゃは、いろんな治療ちりょうをして退院たいいんさせないものですか。ら、もう待ちきれずに病院を逃げ出して来た訳です。荷物にもつも全部置いたまま——。家に帰つて、奥さんに荷物を取りに行つて貰もらおうと頼たのんだら、「わたし行くのイヤだ」と断ことわられた。(笑) そうしたら、友達が行つてくれた。そこのお医者さん曰いく、「あの人は、逃げ出して行つたけど、三日もしたら救急車きゆうきゅうしやで運はこばれてきますよ」と、友達にそう言つたそうですよ。

一週間したら、段々良くなつて、糖尿が治つてきた。——薬を止めたからですね。入院中に、私は一回会いに行つたんですが、その人から、

「先生、今こういう薬を飲んでるんですが……」

「あなたは、未だいまにこんなもの飲のんでるの。飲のむ飲のまないは自由だけれども、薬を一切いっさい止めなさいよ」

とそう言つたんですよ。止めたら元に戻りますよね。結局、止めたら元気になった。——そうすると、これは薬害やくがいですね。お医者さんはそんな事は一切いっさい言いいませんよ。

「あなた、糖尿病ですよ」、「そうですか」で、終わり——。

やはり、これは医者にかかる方が、ちゃんと病院を選えらばなくてはいけないですよ。

この高橋信次先生の話を聴いて、聴いた人がそれを受け取ってどうするか、そのやり方と同じですよ。別に変わりないですね。

それで、その人、他の病院に行ってみた。そうしたらそのお医者さんが、

「なんだ、その病院、酷い事をやっていたんですね」（笑）

と言われたそうですよ。これじゃあ、しょうがないですよ、医者同士でそんな事を言っていたんでは――。

この頃は、お医者さんが多くなって何処でも困っているんですよ。そのくらいお医者さんが一杯いるんですよ。

病院にばかり行っても何にもなりませんよ。そうでなくても、この頃は、学校に行っても碌に勉強もしないで、お医者さんになる人がいますから、病気の事が分からない人がいますよ。――いや、これは医者がそう言ってるんですから間違いないですね。

（笑）私がよく知っている医者が、

「朽木さんね、この頃の医者はね、余程注意しないと殺されちゃうよ」（笑）  
なんて言われましたよ。

やはり、自分がお医者さんにかかる時には、心をちゃんとしておかないと、  
//類  
は友を呼ぶ” 法則に従って……（笑）、おかしな方に行ってしまうですよ。

まあ、お医者さんが、どんな事を考えているのか知りませんが、私もね、私は、お医者さんの悪口を言っているんじゃないですよ。もつと心を知って貰いたいです。

最近のお医者さんは聴診器はいらないんですよ。スイッチを押すと、パーツと結果が出て来る。（笑）本当ですよ。

しかし、データはそんなに入っていませんから、一人<の身体の本当の状態は分からないですよ。

人間は一人<、みんな心も身体も違う。本当は器械でやる訳にいかないんですよ。

ところが、これからの医学はどん<そうなっていくますね。

一九八四年十一月